

WebSAM 導入事例

住友軽金属工業株式会社 様

WebSAM

統合監視システムを刷新し 安定稼働に不可欠な 障害対応力を強化



住友軽金属工業株式会社
システム部 担当部長 兼
名古屋システム室長
湯澤 茂樹 氏



住友軽金属工業株式会社
システム部 名古屋システム室
担当副課長
西 周一郎 氏

国内屈指のアルミニウム、銅の素材メーカーとして知られる住友軽金属工業様。その最重要拠点に位置付けられる名古屋製造所では、ホストシステムやオープン系のサーバを完全無人化によって連続稼働させている。一方、それを支える障害監視・通報システムに、拡張性や機能面での課題が浮上。そこで、当社では、NECの統合運用管理ソフトウェア「WebSAM」を導入し、システムを刷新。

24時間の連続稼働を支える 監視・通報システムに課題が浮上

軽量でリサイクルがしやすいという特長が注目され、飲料缶や自動車、建築材料などに多く用いられているアルミニウム。その製造・販売において、優れた技術力で業界をリードしているのが住友軽金属工業様である。中でも、製造の中核を担う当社・名古屋製造所では、365日（年末年始を除く）止まることなく工場を稼働させており、連日、様々なアルミニウム製品が製造されている。

今日、様々なITシステムがビジネス活動を支えているが、当社でも、製造工程を管理する生産管理システムや人事、経理などの各種業務システムを導入し、生産性の向上や業務の効率化に取り組んできた。同社の工場が連続稼働であることから、これらのシステムも無休無停止で稼働している。

一方で、無停止稼働を実現するには問題もあった。システムに起こるトラブルをゼロにすることは、現実には不可能に近いからだ。しかも、同社のシステムは専任の運用担当者を置かず、無人の完全自動稼働が前提となっている。そのため、仮にシステム障害やそれにつながる可能性のある異常が発生した際には、いかに速やかに対応できるかが重要な課題となる。

それに対し、当社では、システムを監視し、万一障害が発生した際には担当者にポケベルやプザーなどで通報するシステムを構築していた。

「当社では、NECのACOS上に構築したホストシステム、UNIX、Windowsサーバを用いて、生産管理や各種業務システムを展開しています。その上で、連続稼働をサポートするため、監視制御盤を用い、ACOSシステムの監視・通報のための独自システムを導入していました」と同社の湯澤茂樹氏は語る。ホスト以外のサーバについては、それぞれ個別に監視を行い、障害発生時にはホストを経由して通報を行っていた。

しかし、独自開発したこのシステムは拡張性に乏しく、「サーバや新たな機器を追加する場合、それらを監視対象に加えるために多大なコストや手間がかかるという問題もありました」と湯澤氏は明かす。さらに、ポケベルやプザーによる通報では、トラブル発生時に詳しい内容までは通知することができず、迅速な対応が難しいという問題もあった。

必要機能を包括的に揃えている点 コストパフォーマンスを評価

そこで、当社では、ACOSの更新を契機に、新たな統合監視システム導入の検討を開始。最終的に、NECの統合運用管理ソフトウェア「WebSAM

System Navigator」を採用し、新システムを構築することを決めた。

「必要な機能をオールインワンで揃えていること、監視テンプレートが充実しているのがカスタマイズすることなくそのまま使えるなどコストパフォーマンスに優れている点が最大の決め手となりました。10年間は、使い続けたいシステムです。今後の拡張にスムーズに対応できる点を重視しました」と同社の西周一郎氏は選択のポイントについて語る。

また、同社は、これまでもNECから多くのシステムを購入しており、サポートも一括して依頼している。西氏は「その間に実感した、NECの技術力やサポート力には大きな信頼を寄せていました」とも付け加える。

同社がWebSAMの採用を決定したのは2005年末である。それを受け、2006年4月には新しい統合監視システムの基本構成を決定。その後、2007年1月から新しい統合監視システムの稼働が開始した。システムの構築時には、NECグループのNECソフトウェア中部が中核的な役割を担い、現在も継続的にサポートを行っている。

詳細情報の通知機能により 障害時の初動対応が迅速化

新システムでは、ACOSからファイル転送シス

テム経由で、UNIXサーバ、Windowsサーバからはエージェント経由でログを収集し、それらをWebSAMで統合監視するという形態をとっている。もちろん、様々なプラットフォームの機器に対応可能なWebSAMなら、システム拡張時などにも、容易に監視対象を追加できる。

そして、あらかじめ設定したCPUやメモリ使用率の限界値の超過や、ログに出力された異常メッセージなど、何らかの異常やトラブルをWebSAMが検知した際には、WebSAMが、通報の役割を担うシステムにその情報を送信する。その際、WebSAM側で、あらかじめ設定したルールに沿って、障害内容、問題発生領域、さらには障害発生時刻に応じた連絡方法と連絡対象となる担当者を指示。それを受けた通報システムは、WebSAMのコマンド指示に従い、携帯電話や電子メールといった方法によって、障害通知を行う。

「通報の際には、WebSAM側でトラブルの概要も同時送信してくれます。これにより、連絡を受けた担当者が、『緊急度』や『誰が対応すべきか』を即座に判断でき、初動対応をスピーディに行うことができるようになりました」と西氏は、新システム構築の成果を紹介する。こうした成果が、障害時のサービス復旧時間の短縮に貢献することはいままでもない。さらに、これまではトラブルの詳細い内容までは通知されなかったため、担当者は、通報を受けて、駆けつけるまでの間にトラブルの

PROFILE 住友軽金属工業株式会社

設立：1959年8月（1897年4月創業）
資本金：202億1,100万円
売上高：2,294億6,400万円（2007年3月期）
従業員数：2,352人（2007年3月末）
主な事業：385,592百万円（2005年度）
本社所在地：〒105-8601 東京都港区新橋5-11-3
事業概要：1897年「住友伸銅場」として伸銅事業を、翌1898年にはアルミ圧延事業を開始。1936年には世界最高の強度を誇る超々ジュラルミンを開発するなど、世界をリードする技術力を駆使して、広く社会に貢献している。
URL：<http://www.sumitomo-lm.co.jp/>

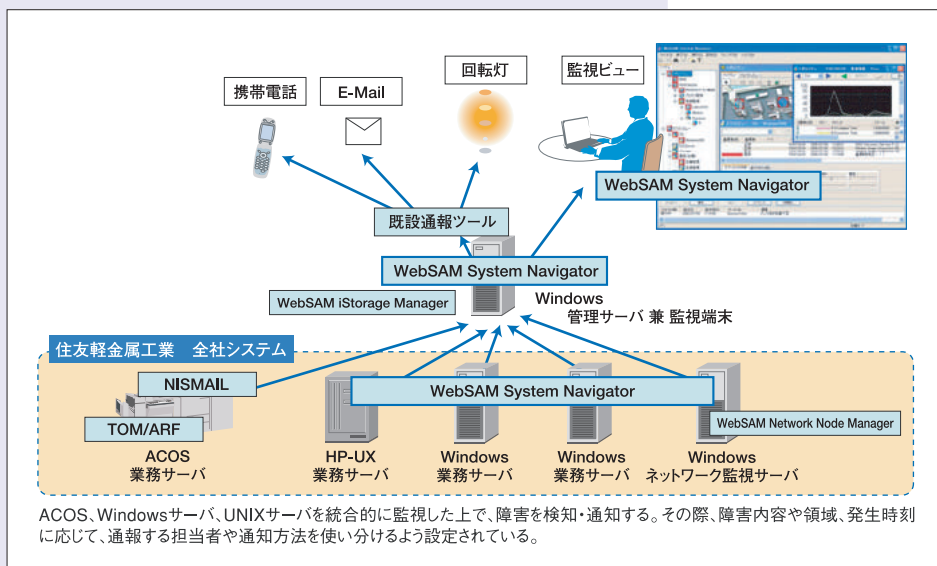
内容がわからず模索するなどして、精神的な負担になっていたところが、現在では、通報を受けた段階で一次判断ができるようになり、担当者の負荷軽減にも結びついている。

「将来的には、WebSAMのナレッジ蓄積機能などを活用し、障害への対応策をデータベース化することも考えています。また、日常的に発生するようなエラーなどであれば、担当者が自宅などから管理ビューにアクセスし、必要な処置を行えるような環境整備も進めたいですね」と西氏。

「今回の全社システムをベースに、今後は、グループ会社全体の統合監視システムとして展開したい」と湯澤氏は、今後の展望を述べる。

このように、同社では、WebSAMを活用することで、システムの監視・通報機能を強化。同社のビジネスに欠かせないシステムの安定稼働を、さらに高いレベルで実現しようとしているのである。

統合監視システムイメージ



お問い合わせ
NECソフトウェア中部
第二システム事業部 第二システム部
〒470-0111 愛知県日進市米野木町南山500-20
TEL: (0561) 75-1947 FAX: (0561) 75-1462
【受付時間】平日9:00-17:00
E-mail: customer@cnes.nec.co.jp
URL: <http://www.cnes.co.jp/>

システムソフトウェア事業部
第三システム開発部
TEL: (0561) 75-1928 FAX: (0561) 75-1466
※記載された会社名及び製品名は、各社の商標または登録商標です。
★内容は改良のために予告なしに変更する場合がありますのでご了承ください。

Cat.No.IT-13-04-01